

『C 型肝炎経口剤治療は、“選択の時代”へ』

肝臓川柳



『新時代 ヴィキラックスで ビックリっす!』

(ウ`ィキラックス…ウ`ィキラックス…ウ`ィキラックス…

ビックリッス…ビックリッス……)

……………ノノノノノ

C型肝炎に対して、現在経口抗ウイルス剤治療が盛んに行われており、多くの例が完治（ウイルス駆除）していますが、去年12月より、HCVゲノタイプ1型の第3番目の経口抗ウイルス薬が発売されました。

NS3/4阻害薬 Paritaprevir/r と NS5A 阻害薬 Ombitasvir を配合した

ヴィキラックス配合錠（アヅヴィ合同会社）です。

ハーボニー配合錠と同じく12週間投与であり、

NS5A領域のY93**変異がない**場合、**駆除率はほぼ100%**です。

変異がある場合は80%台とやや低く、肝硬変は代償性（ChildA）のみ適応、

薬剤相互作用があり作用併用禁忌、注意薬があるなどの制限がありますが、

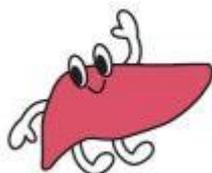
ハーボニーと異なり**高度腎機能障害例にも使用可能**です。

C型肝炎経口剤治療は、2年前第1番目の薬として登場したダクルインザ+スンペラの“手探りの時代”から、**治療薬の“選択の時代”**に入りました

今後2017年以後に、HCVゲノタイプや変異、肝・腎機能に関わらず、

8週間投与で全ての例が完治する新薬が登場する**“万能の時代”**が来ると予想されています。

C型肝炎治療はさらに進歩しており、目が離せません。



これだけ覚えておけば損はない!

今 回 の ポ イ ン ト

C型肝炎に対して、HCVゲノタイプ1型の第3番目の経口抗ウイルス薬が発売されました。

12週間投与であり、変異がない場合の駆除率はほぼ100%とされています。

今や、治療薬の選択の時代に入りました。

今後2017年以降にはさらに新薬が登場予定で、万能の時代が来ると予想され、

C型肝炎治療の進歩に目が離せません。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)